

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072800804		
法人名	(有)創生活環境運営		
事業所名	グループホームひだまりの里とよしな		
所在地	長野県安曇野市豊科高家782-2		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームでは利用者1人ひとりに様々な場面で寄り添い、ニーズをはかり日々の生活の中で良好なパートナーとして各職員が尽力しています。職員の職務は業務優先よりも、その場の利用者様に対して関わりを深めることを優先させ、生活介助や支援をおこなうこととしています。家族的な関わりや環境作りに心がけ、また福祉のプロとして各職員がスキルアップに向けた取り組み(勉強会や、課題検討の小会議)にて資質向上をはかっています。「心と寄り添う関わり」を通して利用者との生活を送っています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072800804&SCD=320
----------	---

<p>北アルプスが望める豊かな田園風景と高家公園に隣接し恵まれた住環境の中に、住生活に気配りされたモダンな木造建築仕様でグループホームひだまりの里とよしなが設置されている。同母体の通所介護、集会所ひだまり・子育て支援育(そだち)が隣接しており、日常生活の中で世代間交流が図られ家族的で和やかな雰囲気、が得られるよう配慮されている。運営者の良好な職員管理の下研修体制も確立しており、職員全員がスキルアップに努め生き生きとケアに当たられている。なお経験と力量を持ち合わせた管理者の指導を得て、全職員が心のこもった、心の通いあう寄り添いのケアサービスの提供に努めている。また入居者が重度化した場合や終末期の支援に向け、ホーム独自の「重度化した場合の指針」を作成し前向きに取組まれており、入居者、ご家族の安心と安定に繋がっている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年11月25日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「共生・協働・感謝」の理念をホーム内に掲示するとともに理念に沿ったケアをしている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム運営理念を掲示すると共に、朝礼時や申し送り時に読み合わせをして職員間で共有を図り、ケアサービスに当たられている。</p>	<p>今後更に地域や入居者の状況に合わせ職員全員で話し合い、現状に即した理念の見直しをされることに期待する。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>隣接する畑の方々と収穫物のやりとりや日常的な会話(挨拶や世間話)をして良好な付き合いをしている。</p>	<p>会場提供をして地域合同で桜祭りを開催したり、ホーム菜園の収穫祭を行い地域の方々に参加いただく等、積極的に地域住民との交流や連携を持たれている。また郷土資料館への見学やボランティア活動(傾聴ボランティア、楽器演奏、フラダンス等)を受け入れ、地域の人々との関わりを大切にされている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>年に5回の地域連絡会を通じて、当事業所の状況報告、地域との連携を日々模索している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を定期的に関き取り組みについて報告している。</p>	<p>運営推進会議には家族会会長、地域関係者、警察、行政担当者等、幅広い立場の方々の参加を頂きホームの報告や質の確保に向けた取り組み、提案事項、要望などについて話し合いサービスの向上に活かされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>同地区内の民生委員の視察研修などの受け入れや一般市民向けの認知症講座などの依頼があり受け入れている。</p>	<p>運営推進会議の折に行政から担当者が訪問して職員や入居者と交流を図り、ホームの現況を周知して頂いている。なおホームの要望、提案、困難事例について相談掛けをされる等、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて伝えている。</p>	

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策として玄関の施錠は行っているがホールからは自由に出入りできるようにしている。	入居時に重要事項説明書に身体拘束について明記されており、基本的には身体拘束をしないケアサービス提供に取組まれている。職員会議の折に話し合い周知が図られている。現在離設傾向の入居者がおり玄関は施錠されているもののホールは開放されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設やニュースなどの事件、事故事例を会議にて検討し、当施設の業務に反映させている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族より相談があり活用した人がいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をおこない、また日常的な疑問、質問に答えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的実施。また面会時に家族の方と話し、意見や思いを共有している。	ご家族訪問時や家族会・運営推進会議出席時にご家族の意見表出の場が設けられており、意見等を積極的に聴く努力がされている。なお毎月発信される便りや電話連絡等により得られた意見、要望について職員会で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	労使委員会にて職員の意見を代表者に提案している。	労使委員会があり、各事業所より代表者が出席して職員の意見や提案を伝え運営に反映されている。子育て職員の環境保全などにより職員は安心して継続就労に当たられている。	

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己啓発カードを使用し、各職員が目標、実績、評価を行っている。運営者、管理者も各職員に対してアドバイスをおこなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修プログラム、個人のスキルアップの為、入社から5年間のプログラムを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本圏域グループホーム連絡会を作り交流している。また他施設と行事を通じての交流も深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前見学、訪問により本人と話す機会を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、訪問により家族と話す機会を作り話をする中で信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みに来た方からの情報をもとに判断し、他のサービス利用もすすめている。		

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	弊社の理念、ケアの心構えに取り入れている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのコミュニケーションを重視し利用者を軸に支えあう関係ができています。ご家族の喜びや不安も共に感じ相互関係を作っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴も配慮し本人の大切な物事、人に対して継続的な関係が維持できるように支援している。	生活歴より得られた入居者の思いや、要望を大切に継続的に支援されている。隣接のデイサービスとの合同行事を開催し地域の知り合いの方々との触れ合いが行われている。なお昔からの馴染みの美容院へご家族と出かけることを楽しみにされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を配慮し適切な支援提供、孤立しないよう個別支援にも取り組んでいる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙での交流や、相談を聞いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中、利用者との会話や行動など観察し、その人のニーズを受け取り支援に反映させている。	日々寄り添いのケアの中より入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。なお意思疎通が困難な入居者についてはセンター方式を使用してエピソードより得られた気づきを活用されている。	

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、本人から状況に応じた聞き取りや情報収集をし把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、職員間で情報交換をおこない現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員各自が課題を出し合いモニタリングしケアカンファレンスにてケアプランを作成している。	職員全員でケアにあたり日頃より入居者やご家族との関わりの中より思いや意見を把握してアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行いケアプランを作成しご家族の同意が得られている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、申し送りノート等記録し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同社内のディサービスとの協力でグループホームだけではない関わりもしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。またニーズが出た際地域の美容院、菓子屋を利用している。		

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診内容、薬についての説明等、家族のお知らせの中に入れて情報提供している。また、必要に応じてご家族に受診の同行をお願いしている。</p>	<p>入居者全員が、ホーム協力医をかかりつけ医とされており職員による受診支援が行われている。協力医以外の受診に際してはご家族による対応となっている。その折には日頃の入居者の情報提供が行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの定期的健康管理、緊急対応をしている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の家族との調整、また早期退院に向けて病院関係者、契約訪問看護師、家族と共にカンファレンスをおこなっている。その上で必要に応じた個別契約訪問看護等対応している。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早期から医師を含めたカンファレンスをおこなっている。</p>	<p>入居時の重要事項説明書に重度化した場合の指針について明記して入居者、ご家族に説明をされている。重度化した場合には早期から話し合いを重ね入居者やご家族に安心と安定したサービス提供ができるよう取組まれている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に緊急時・対応マニュアルの確認をしている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域防災訓練に参加。災害時の地域協力態勢を築けている。</p>	<p>地域との合同防災訓練に参加すると共に、年1回地域の方の協力を得て夜間想定避難訓練を実施されている。なお毎月の避難訓練も行われている。現在地域との防災協定に向けた話し合いが行われていることや、市町村の指定を受け今年度末にはスプリンクラーを設置されることを伺った。</p>	<p>入居者一人ひとりの状態を踏まえた時に、特に手薄になる夜間時の対応に職員の不安は大きいものと思われる。職員出勤時に災害に遭遇したと仮定し、具体的な避難誘導策をシュミレーションをして不安解消に繋がることに期待する。</p>

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のなじみの言葉も使いながらプライバシー尊重している。	職員全員が接遇研修(話し方、電話対応、お茶だし等)に参加し意識の向上を図ると共に、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。なお日頃よりゆとりのケアに努めるよう心掛けられている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がニーズや想いを表せることができるよう支援している。また自己決定しやすいよう分かりやすい言葉かけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあり、その中で1人ひとりのペースを大切にしながら希望に合う支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や装飾品など本人が望む品を購入できるよう支援している。また美容院などおしゃれが楽しめるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材整理から食事準備まで利用者が関わることができ、献立の希望や調理方法(味付け)等、利用者の意見を取り入れている。	入居者の嗜好を把握しており、入居者と共に買い物に出掛け希望を聞きながら食材を購入し調理準備等を楽しまれている。なお入居者と共に古代米を収穫し(縄文探検隊)蒸して職員と一緒に会話を楽しみながらゆったりと和やかな雰囲気でお食事を伺った。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない利用者に対しては補助食品(ゼリー、飲料など)提供している。		

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>基本的に毎食後の口腔洗浄、歯磨きの声かけ、実施している。義歯の洗浄を周期的におこなっている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>各利用者の排泄パターンや支援のタイミングをつかみ実施している。</p>	<p>日常の寄り添いケアの中より入居者の排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われている。入居者の身体状況に配慮して、ベットサイドに水洗ポータブルトイレが設置されている部屋もある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>チェック表を使用し水分の促し、繊維質の食事の提供、日々の体操をおこなっている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴希望者に声をかけ、入浴時間と本人の予定と調整をはかっている。</p>	<p>入居者の希望日や時間帯(朝風呂・夕風呂)に個別入浴が行われている。時には男子職員が入居者(男)と入浴し背中を流し合う場面があることを伺った。入浴を拒む入居者にはせかすことなく状態や時間をみて支援されている。浴室外に花を植え眺めながら楽しく入浴できるよう工夫をされている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>体調や希望に応じ自由に居室、ソファ、畳の間を使い休息をとっている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診時の説明は申し送りノート記入し、服薬説明書はケースファイルに保管して職員全員が確認できるようになっている。</p>		

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭・畑仕事や家事参加から自分の仕事として取り組み生活に張り合いが生まれている。利用者それぞれの気晴らしや楽しみを日々の中で提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等希望に沿って外出している。遠足などの外出行事では利用者のニーズを聞き計画している。またいつでも家族と共に外出できるようにしている。	日常的な散歩や食材の買い物、外出行事{松本城見学、花巡り(桜・バラ・アジサイ・スイレン・ひまわり等)、外食(ギョウザ店・回転寿司等)}に出掛け入居者の希望に沿った支援に努め、季節を肌で感じてもらうと共に心身の活性に繋がるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれ嗜好品を購入する際には、自分でお金を持ち、使えるように支援し実施している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話等のやりとりは自由になっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、過ごしていても不快にならない環境整備に取り組んでいる。季節によって日照時間が異なるため、カーテン等を使用し光の調節に努めている。	木造建築のホームは広く共用空間を含め温もりがあり、天窓からの採光も柔らかく差し込む中、ソファやテーブルで寛がれるなど居心地の良い場所となっている。廊下には入居者の日頃の姿写真(ホーム行事や地域行事等)を掲示して思い出を振り返り楽しまれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でくつろげる畳スペースや1人でテレビや新聞を楽しむためのソファを設置している。気の合う同士のテーブル配置にも心がけている。		

外部評価結果(グループホームひだまりの里とよしな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、利用者が居心地よく過ごせる環境づくりをしている。	入居に際し、使い慣れた馴染みの品(家具、観葉植物、家族写真、遺影、位牌等)を持ち込まれ入居者の意向に沿った配置により、安らぎが得られる生活スタイルとなっている。畳・フローリングの部屋など入居者一人ひとりの思いに沿った支援に努められている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子に名前を貼ったり、座布団を置き自分の場所を把握できるようにしている。また利用者のできることを活かし家事や庭仕事など自由におこなえるよう支援している。		